

水系ウレタン樹脂 スーパーフレックス210

未知のニーズ、無限の可能性。
柔軟力(フレックス)をもった、これからの必需素材。



井上 茂紀 いのうえ しげのり
樹脂材料事業部 樹脂材料営業部
06-6229-1595 s-inoue@dks-web.co.jp

——ずっと水系ウレタン一筋で歩いてこられたようですね。

井上 当社に入社して以来、9年間、ほぼこのスーパーフレックスシリーズの研究開発を担当してきました。その意味でいいますと、来る日も来る日も水系ウレタンについて考えつづけてきたといってもいいでしょう。「どうすれば、お客様の要求にお応えできるか、どんな製品を開発していけば喜んでいただけるか」と時間を忘れて、毎日研究に没頭してきました。そして、つい数か月前に営業担当になりました。

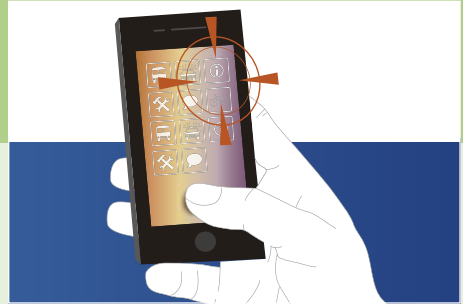
研究と営業、細かな部分でいいますともちろん違いますが、私にとっての「一筋の道」は、まったく同じ歩みを持続していくといった感じがしています。むしろ、市場の前線に立つことで、より多方面の方々に接してお話を聞くことで、研究部門では、知ることができなかったさまざまなことを学んで、さらにこの商品への思いが強くなりました。

——いまの社会の中で、かなり多用途に用いられていますね。

井上 水系ウレタンの需要は、もう無限といっても過言ではありません。あらゆるところで用いられています。建築資材やプラスチック製品のコーティングから、接着剤、塗料として、建築物や自動車、家電製品などに、表面だけでなくその中にも用いられています。

なかでもめざましいのが、電子機器の分野ですね。たとえば、これまでのパソコンや家電のことを考えてみますと、あるスイッチやキーボードなどを押して操作していましたが、それがいまや、画面を見てふれて自在に素早くスクロールするようになってきました。そうした、機能的な進化によって、テレビやスマートフォン、タブレット端末など、続々と新しい機器が生まれ、またたく間に普及していていますね。さらには、私たちの予測をはるかに超えたものが出現してくるかもしれません。

そうした分野で、このスーパーフレックスは欠かせない樹脂素材なのです。



——スーパーフレックス210の優れた点はなんですか。

井上 これは、シリーズ全体にもいえるのですが、まずは、とくに広範囲な素材に対して密着性に優れていることです。一般的にプラスチックは密着しにくいのですがこれを飛躍的に高めてきた開発の経緯が当社にはあります。また、透明性や粘着性が低いことも重要な要素になります。こうした点で、自信をもっておすすめすることができます。



——実際に研究者自身が前線にいることも強みでしょうね。

井上 研究者の立場でお客様に接するということはさすがにありませんが、まさに自分が研究開発して立ち上げた製品をおすすめするということもあります。訪れたお客様の担当者とは、問題解決という意味では、かなりの部分で共有することも共感することも多くありますから、微に入り細に入ったご要望に即応できるよう心がけています。場合によっては、お求めいただいているもの以上の、「一歩二歩先のニーズ」を見越して、異なったタイプのサンプルをご提案させていただいています。もちろん採算ということは重視しますが、ギリギリのところでは「最善の努力を」とチャレンジしています。



はじめにお話ししましたように、この製品の活躍の場は、まだまだ未知の可能性に満ちています。これからもより多くのお客様の声をうかがって、これに答えていくことで自分自身の可能性も限りなく拡大していきたいと思っています。

水系ウレタン樹脂 スーパーフレックス210

■ 性状

外 観	淡青色半透明液状
固形分 (%)	34~36
pH (原液)	約7
イオン性	アニオン

■ フィルムへの密着性の評価結果

フィルム※1	密着性試験結果※2
OPP	100
CPP	100
PET	100
PE	100

※1. コロナ放電処理したフィルムを使用

※2. 乾燥膜厚10μm(2mmマス 基盤目セロハンテープ 剥離試験/残存率%)